

# 理研会報

発行日：平成28年9月20日  
号数：No.382  
発行：印旛地区教育研究会理科研究部  
HP：http://rikainba.com  
メール：rikainba@yahoo.co.jp



去る8月24日(水)、第66次印教研集会理科研究部会が開催されました。小学校部会は成田国際高等学校、中学校部会は成田小学校を会場とし、それぞれ5つの部会から貴重な提案をいただきました。そして、北総教育事務所指導主事 鳥海 雅弘先生、千葉県立東部図書館 図書館連携課長 大三川 弘先生より、各提案について丁寧にご助言をいただきました。選考の結果、小学校部会は5部会、中学校部会は3部会が県教研へ進むことになりました。今回も昨年に引き続き若い先生方の提案が多く見られ、質疑応答でも若い先生方が積極的に発言している場面も見られました。一方、研究活動を進めていく難しさや大切さについても話題になりました。



助言者の先生方、提案された各部会の先生方、司会、記録、受付補助等でご協力をいただきました先生方に、心より御礼申し上げます。

## ☆ 参観された先生方から ☆ (敬称略)

### 印西市立原山小学校 松元 優子

理科の教研集会に3年間、参加しました。いつも理科研究部会の先生方の「子どものために」「理科を好きに」という強い情熱があふれる研修会で、提案される先生方の創意工夫のある、科学的で論理的な発表に、私自身の向上心に刺激を受けています。

今年も各部会の研究テーマに即した研究発表でした。1部会の発表は、観察について科学的な視点を意識させるワークシートや掲示物の工夫、グループ活動を取り入れた学び合いから、既習事項と関わらせながら、観察を行うというものでした。2部会は、「4Q S」を活用し、見通しを持たせ、自ら仮説を立てて、実験に取り組ませる実践でした。3部会は、具体的な体験活動を通して、児童の驚きや疑問を引き出し、実感を伴った理解を促す磁石の実践でした。4部会は、今年より主体的な学習活動を目指す指導の工夫を目指し、生物分野で児童が主体的に思考できる試案の発表でした。また、5部会では、見通しを持たせ、既習事項を取り入れた提示を行い、児童へ揺さぶりをかけ、実験の素材を児童自ら見つけて取り組み、主体的に学ぶ研究でした。どの部会の研究も「児童を主体」とした素晴らしい実践発表でした。講師の先生より、児童が主体的に学び、問題を解決させるための、発問や話

し合いの仕方などの授業方法を見つめ直すことで、より言語活動が充実し、思考を深めることができるとの助言があり、その大切さを感じることができました。

理科の授業では、児童の驚きや疑問から課題を見つけ、さらにその課題を解決していく手段を話し合いなどから見つけ出すよう、教師側が仕組む必要があることを強く感じました。今後の理科学習や生活科の指導で活用していきたいと思えます。



### 佐倉市立青菅小学校 竹中 彩華

小学生の時、理科が大好きな先生方に出会い「理科の魅力」をたくさん教えてもらいました。「予想すること」「考えること」「探究すること」そして、「自分なりに発見すること」の面白さに気付かされ、いつの間にか理科が魅力のある教科になりました。

さて、今年度の教研集会では、各部会の先生方による白熱した討論が繰り広げられました。まだまだ引き出しの少ない私にとっては、「なるほど!」と思うことばかりで、どの提案も興味深く、よい刺激となりました。今年度、私は、1年生と一緒に生活科の学習を

行っています。普段の子どもたちの様子を見てみると、おもちゃ作りや観察が大好きで、こちらが驚くような気付きをたくさんしています。今回の発表を聞き、理科の学習が始まる2年後を見据え、今後も「理科」へつながる「生活科」の学習を意識して行っていきたいと感じました。

また、今回、私は、研究部の一員として、話し合いや提案資料の作成等に参加させていただき、そこでも、学ぶべきことが多くありました。

このような、理科に対する熱い思いを持った先生方が研究を進めていくことで「理科の魅力」も年々磨かれていくのだろうと感じました。私自身もより一層研究に努め、子どもたちへ「理科の魅力」を伝えられるようになりたいと思います。

#### 四街道市立四街道旭中学校 林 裕美

先日、学区内の理科の先生方とお話しする機会があり、「理科を教える」ということはどういうことか改めて考える機会がありました。教科書に載っていることを着実に教えることなのか、それに加え、日常との関連をはかっていくことなのか、本来であれば後者がそれに該当するのだと思いますが、若輩者の私には前者で手一杯な状況ということに気がきました。そのため、印教研のこの発表では色々と勉強させていただくと、意気込みをもって臨ませていただきました。

各部会の提案では、理科と日常をつなげる工夫を随所に感じました。一例を挙げると、三部会の提案は、授業のまとめの時間にICT等を活用して、写真や映像を生徒に提示するものでした。生徒たちはそこから学習内容が日常生活にどう関わっているかを推察することができていました。それは、経験の浅い深いに



関わらず、授業中の一工夫でできるものです。提案や資料を参考にさせていただき、2学期から始まる授業計画を練り直し、「理科を教える」ということの本質に迫っていけるよう精進していきたいです。

と、意気込みをもって臨ませていただきました。

#### 成田市立西中学校 河野智子

中学校に勤め始めてから講師を含め4年間、印教研には毎年参加させて頂いています。この4年間に、各部会が前回のテーマのまとめを終えたということもあり、部会ごとの研究テーマが変わってきました。数年前は1つの学習課題や教材について、例えば『実生活との結びつきを実感させるには』だったり『興味・関心を高め、理解を深めるため発展的に学習させるには』どう指導したらよいかということや、『意欲を高めるための教材・教具・指導法等の工夫』が研究テーマとなっており、その単元を行う際には参考にしようとは思っていたものの、なかなか実践させられずにいました。

昨年度・今年度から『主体性をもって学習させるには』ということが研究テーマになっています。自分自身、『どのような指示（声かけ）をすれば、生徒たちが自ら考え行動（実験・学習）できるか』が課題です。各部会からは、その実践方法が具体的に示されていたため、自分が受け持つ一年生ではどの課題・実験で実践させられるかを考えるきっかけになりました。

仮説の立て方や、考察のさせかたばかりにとらわれ実験・教材の研究をおろそかにしてしまうわけにもいきません。何よりも生徒のため、自分こそ『主体性』をもって研修に臨まなければならないと思う1日でした



小学校部会では、昨年度の長期研修生 成田市立津富浦小学校 長見秀樹先生から研究報告がありました。5年生の地層の学習における地域教材化および授業プランについて、多くの資料を用いてわかりやすく説明していただきました。

印旗の子どもたちの理科の力を伸ばし、学びの質を高めていくためにも、この研究成果を多くの学校で実践していただきたいと思います。



提案からの学びが多く、今後の授業改善につながる研修会になったようです。ご感想をお寄せいただいた4名の先生方、ありがとうございました。